



特集

# 学校のよりよい

## 博物館利用をめざして

琵琶湖博物館は、学校団体の利用が非常に多く、来館者数全体の20%近くを占めています。平成15年4月～平成16年3月までの来館数は、学校数1028校（県内358、県外670）、生徒数8万6050名（県内1万9991、県外6万6059）でした。体験学習を希望する学校も多く、平成15年4月～平成16年3月までの体験学習実施数は、学校数169校（県内110、県外59）、生徒数1万2314名（県内7273、県外5041）でした。

このように、多くの学校に利用されている琵琶湖博物館ですが、より効果的に利用してもらうためには、また、より利用しやすくするためには、どのような手立てが必要かをアンケートをもとにさぐってみました。

### アンケート結果より

平成16年1月末に「琵琶湖博物館の利用に関するアンケート」を、滋賀県内小学校（234校）、中学校（106校）、盲・聾・養護学校（13校）に対して実施しました。回答率は、小学校80%、中学校66%、盲聾養護学校85%でした。ご協力ありがとうございました。

その結果を示し、若干の考察を加えたいと思います。

グラフ中の数字は、%表示以外は、すべて回答数です。

また、表記中の今年度とは平成15年度を、来年度とは平成16年度をさします。

### グラフ1

県内では、小学校3、4、5年生の利用が多いことが分かります。

これは、小学校社会科の学習内容が琵琶湖博物館の展示とつながるものが多いためだと思われます。

また、県外の利用では、5、6年生も多く、特に6年生は、修学旅行での利用が多くなっています。

### グラフ2

利用目的は、「遠足・校外学習」以外では「環境学習」と「社会科」が多くなっています。

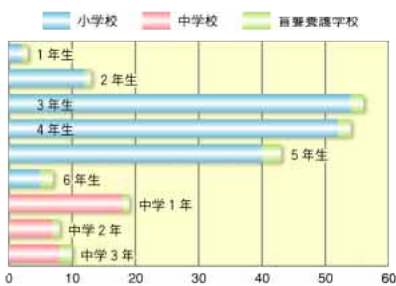
「環境学習」が多くなっていることから、琵琶湖博物館が環境学習の拠点

として位置づけられ、期待されていることがわかります。

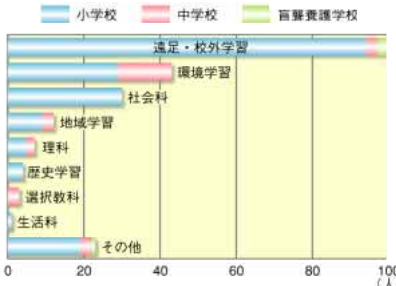
### グラフ3

利用内容は、展示見学が中心になるのは当然ですが、サポートシート等を使って、見学のねらいを絞っての利用が多いことが注目されます。（サポートシートとは、展示の意図や、見学するときの新しい視点をしめしたシートです。

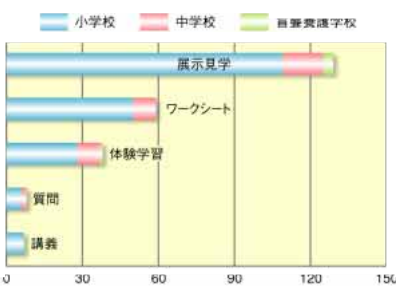
グラフ1：今年度利用した学年は？



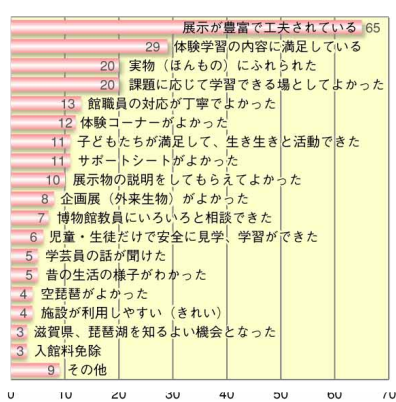
グラフ2：今年度利用した目的は？



グラフ3：今年度利用した内容は？



グラフ4：博物館を利用してよかったこと



交流センター主査 谷口 雅之  
（教育学）  
教員研修での講義のようす

A4判の大きさで全19種類あります。

### グラフ4

「琵琶湖博物館を利用してよかったこと」の問いで、一番多かったこたえは、「展示が豊富で工夫されている」でした。このことから、展示物が学校の学習にうまく利用されていることが伺われます。また、二番目が「体験学習の内容に満足している」であり、学校側との事前の打ち合わせと精選されたプログラムの成果といえることができ

ます。(体験学習の主なものは「プラ  
ンクトン観察」「ヨシ笛作り」「化石の  
レプリカ作り」「わら細工作り」「昔暮  
らし体験」であり、他にも相談に応じ  
て実施可能です。)

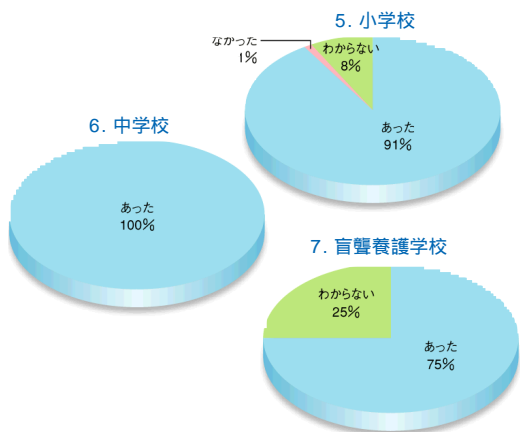
グラフ5、6、7

博物館での学習効果については、中  
学校では、アンケート回答校すべて  
が「効果があった」と答えています。小  
学校では91%、盲聾養護学校では75%  
が、「効果があった」と答えており、  
琵琶湖博物館が学習に有効利用されて  
いることがよくわかります。また、小  
学校の「わからない」理由は、「学習  
中であるため」ということでした。

グラフ8

要望が一番多かったのは、「交通ア  
クセスの改善」でした。これについ  
ては、難しい部分も多くありますが、大

グラフ5~7:博物館での学習は効果があったか?



グラフ8:琵琶湖博物館を学校がより利用しやすくするためには?



きな検討課題の一つです。

「ホームページでの情報発信など、  
学校で活用できる資料の整備」の要望も  
多くありました。これは、学校教育では  
「生きる力」の育成に関わり、「調べる力」  
が重要視されており、いろいろな情報源  
が求められているからだと思われま  
す。また、先生方自身も多くの情報を求  
められていることがわかりました。

「体験学習プログラムの拡充」の要  
望も多く、今後メニューの改善と開  
発に力を入れていきたいと思いま  
す。「学校担当との打ち合わせ、相談」

が大切にされていることは、学校とし  
て見学のねらいがはっきりとしてきた  
あらわれであり、博物館での学習を効  
果的にするために、今後ますます重  
要となることだと考えます。

### 教員研修の充実を

アンケート結果から見学のねらいを

絞つての利用が多いことがわかりまし  
たが、琵琶湖博物館を使つての学習を

組み立てる場合、先生方が琵琶湖博物  
館をどれだけ知っているかにより学習  
形態や内容が変わってくると思いま  
す。まずは、何が展示されているかを  
知ることが肝心です。そして次に、それら  
の展示の意図を理解することにより、よ  
り一層学習計画に深まりがでてきます。

そこで、琵琶湖博物館では、一人  
でも多くの先生方に琵琶湖博物館を知  
てもらつたために博物館教員が教員研修  
会に出向いたり、博物館を会場とした  
教員研修会の充実に力を入れていま  
す。平成15年度は、滋賀県総合教育セ  
ンターの講座や、教育研究会の県や市  
町村単位での研修会などが琵琶湖博物  
館を会場に開かれました。また、県外  
からは、校長研修会や教頭研修会の依  
頼もあり、県内外合わせて、のべ10  
8名の先生方が、琵琶湖博物館に研  
修に来てくださいました。今年度も、  
琵琶湖博物館主催の「生き物飼育方講  
座」(教員研修)をはじめ、多くの教  
員研修会が琵琶湖博物館でもたれてい  
ます。研修内容については、事前に先  
生方と十分打ち合わせをさせていただ  
き、学芸員の講義や体験学習など、で  
きるだけご要望に応えられるようにし  
ています。また、研修会の中で、博物  
館と学校との連携についても話をさせ  
ていただいています。

今後、このような教員研修の受け  
入れと研修内容を充実を図っていきた  
いと考えています。

### 学校のよりよい 博物館利用をめざして

子どもたちの琵琶湖博物館での学  
びをサポートするために、教員研修も含  
めて次のようなことを充実させていき  
たいと考えています。

#### 教員研修

先生方からの質問や相談の対応  
琵琶湖博物館に関する情報の発信  
体験学習プログラム  
博物館を利用した学習の実践紹介

琵琶湖博物館は、理科や社会、環境  
学習での利用が多くありますが、他の  
教科の学習でも十分利用可能だと考え  
ます。見学する中の一つの活動として  
であれば、国語や算数、家庭科、図画  
工作などの学習も入れることができま  
す。琵琶湖博物館の展示は、学芸員の  
研究の成果や思いが反映されたもので  
あり、一つ一つが意志を持って人々に  
語りかけていると言つても過言ではな  
いと思います。これらの展示をどのよ  
うに学校教育の中で生かすか、可能性  
は無限にひろがっています。琵琶湖博  
物館としても学習プログラムを開発・  
提案していますが、先生方自身でも、  
琵琶湖博物館を使った学習プログラム  
を考えてみて下さい。今後は、それら  
のプログラムや実践を交流する場を持  
ち、学校のよりよい博物館利用に役立  
てていきたいと考えています。

まずは、先生方が、琵琶湖博物館で  
感動し、新しいことを発見してみたく  
ださい。そして、博物館教員に気軽に  
声をかけてください。